fied ASP 6.

1. It was ascertained that the most adequate irradiation hours per day that brought forth the highest rate of the frond kept under the above mentioned culture conditions differ among the species and varieties of *Porphyra*. The adequate irradiation hours per day were 20 hours in the two cases, namely No. 1 (Tokunoshima) and No. 3 (Izumi) and 16 hours in No. 4 (Saga), 12-16 hours in No. 2 (Kiire).

2. In some varieties of *Porphyra*, the responsive growth of the frond put under the adequate irradiation hours was very quick, but in others it was slow, so the authors assume that the adaptability of the frond to the light was not small and this might be the cause of the growth-rate difference among the varieties of *Porphyra*.

文 献

1) 富士川瀏・他 (1936): 朝鮮海苔の生理に関する研究. 朝鮮水試報告 7, 100～112. 2) 富士川瀏・他 (1937): 朝鮮海苔の生理に関する研究. 朝鮮水試報告 8 (2), 113～122. 3) 敦賀花人・新田忠雄 (1957): 海藻の生理化学的研究. 内海区水研報告 10, 37～41. 4) 木下祝郎・寺本賢一郎 (1958): アサクサノリの生長に対する光及び水温の影響. 日水誌 **24** (5), 326～329. 5) 木下祝郎・寺本賢一郎 (1958): アサクサノリの光合成に関する二, 三の知見. 藻類 **6** (1), 11～15. 6) 岩崎英雄・松平近義 (1958): アサクサノリの培養-I. 日水誌 **24** (6 & 7), 398～401. 7) 松本文夫 (1959): ノリの生育に対する環境, 特に水流の影響に関する研究. 広大水畜産紀要 **2** (2), 300～312. 8) 寺本賢一郎・木下祝郎 (1962): アサクサノリの室内培養に好適した光条件の検討. 藻類 **10** (1), 12～17. 9) 中谷 茂・下茂 繁 (1962): アサクサノリ類の生長におよぼす日長, 光量および水温の影響. 農電研報告 62004, 1～23. 10) 中谷 茂・下茂 繁 (1962): アサクサノリの培養のための培地および培養槽について. 農電研報告 62001, 19. 11) 新村 巌 (1965): ノリの生育に及ぼす光条件について. 鹿児島水試報告 (昭和 38 年度), 309～321.

学 会 録 事

会 員 移 動

(昭和 40 年 8 月 16 日から 11 月 30 日まで)

新 入 会 (11 名)

退　　会（1名）

飯田　優

寄贈文献

(1964. 12. 1～1965. 11. 30 間に受領したもの)

DÍAZ-PIFERRER, M. Taxonomica, Ecologia Y valor Nutrimental de Algas Marines de Puerto Rico I. Algas Productoras de Agar 1964.

——— A new species of *Pseudobryopsis* from Puerto Rico. Bull. Mar. Sci., Miami Univ., Vol. 15, No. 2, pp. 463–474, 1965.

——— The effects of an oil spill on the shore of Guanica, Puerto Rico Associotion of Island Marine Lab. 4th Meeting.

——— Adiciones a la Flora Marina de Cuba. Carib. J. Sci., 4 (2 & 3) June & Sept., 1964.

猪野俊平・西林長朗　ワカメの游走子嚢に於ける核分裂について (補遺). 染色体、44–45: 1498–1499, 1960.

熊谷信孝・猪野俊平　アミジグサ目の形態発生 II. アミジグサとオキナウチワの四分胞子母細胞の成熟分裂. 染色体, 46–47, pp. 1521–1530, 1960.

———・———　アミジグサ目の形態発生 III. エゾヤハズの胞子形成の異状. 藻類, 第10巻, 第3号, 1962.

KUMAGAE, N., INOH, S. and NISHIBAYASHI, T. Morphogenesis in Dictyotales II. On the meiosis of the tetraspore mother cell in *Dictyota dichotoma* (HUDSON) LAM. and *Padina japonica* YAMADA. Biol. Jour. Okayama Univ., Vol. 6, Nos. 3–4, pp. 91–102, 1960.

LEE, KWOK-YAN Some Studies on the Marine Algae of Hong Kong II. Rhodophyta (Part one). New Asia Coll. Acad. Ann., Vol. VII, Sept. 1965.

西林長朗・猪野俊平 ヒロメの游走子形成. 植雑, 第73巻, 第869-870号, pp. 494-496, 1960.

———・——— ツルモの游走子形成. 植雑, 第74巻, 第874号, pp. 195-197, 1961.

———・——— 海藻の細胞学的研究 I. 藻類, 第11巻, 第1号, pp. 30-38, 1963.

———・——— 海藻の細胞学的研究 II. 藻類, 第11巻, 第2号, pp. 79-91, 1963.

———・——— *Alaria valida* SETCH. et KJELLM., チガイソ, エンドウコンブ及びアラメの胞子嚢群発生について. 植雑, 第76巻, 第895号, pp. 14-23, 1963.

NISHIBAYASHI, T. & INOH, S. Morphogenetical studies in Laminariales IV. Sorus development in *Undaria undarioides* (YENDO) OKAMURA, *Eckloniopsis radicosa* (KJELLM.) OKAMURA and *Ecklonia cava* KJELLM. Biol. Jour. Okayama Univ., Vol. 6, Nos. 1-2, pp. 27-36, 1960.

———・——— Morphogenetical Studies on Laminariales V. The formation of zoospores in *Undaria undarioides* (YENDO) OKAMURA. Biol. Jour. Okayama Univ., Vol. 6, Nos. 3-4, pp. 83-90, 1960.

———・——— Morphogenetical Studies on Laminariales VI. The formation of zoospores in *Chorda filum* (L.) LAMX. Biol. Jour. Okayama Univ., Vol. 7, Nos. 3-4, pp. 126-232, 1961.

篠原千種・猪野俊平 真正紅藻類の比較形態発生学的研究 I. エナシダジアとケブカダジアの胞子発生. 藻類, 第8巻, 第2号, 59-66, 1960.

TANIGUTI, M. The marine algal communities in Shimoda Bay, Izu Peninsula. Jap. J. Ecol., Vol. 15, No. 2, 66-71, 1965.

——— 房総半島, 小湊及び太海の海藻群落. 植物趣味, Vol. 25, Nos. 3-4, 1965.

——— 能登半島, 輪島及び鹿島の海藻群落. 北陸の植物, Vol. 13, No. 3, 1965.

鳥 海 三 郎 東方カリブ海の *Ceratium* 属について (2). 植物趣味, Vol. 25, Nos. 3-4, pp. 24-26 1965.

津 村 孝 平 化石スセプトロネイスの2種について. 地学研究, Vol. 16, No. 7, 1965.

——— 珍奇な微小化石バンヘウルキェラ. 地学研究, Vol. 16, No. 9, 1965.

——— クラスペドヂスクス属の珪藻類. 地学研究, 桜井博士紫褒章受賞記念特集号, 1965.

——— ルチラリア数種とプセウドチラリア. 横浜市大論叢, Vol. 16, No. 1, 1965.

——— 日本産の化石トリセラチウムの3種類について. 地学研究, Vol. 16, No. 2, 1965.

——— 化石珪藻類2種について. 植物趣味, Vol. 26, No. 1, 1965.

雑 誌

Acta Biologica Venezuelica: Vol. 3, Nos. 25-29, Vol. 4, No. 1, Nos. 8-14.

БОТАНИЧЕСКИЙ ЖУРНАЛ: Tom. 49, Nos. 10-12, Tom. 50, Nos. 1-8.

海洋与湖沼: Vol. VI, Nos. 2-4, Vol. VII, Nos. 1-3.

内海区水産研究所刊行物：C 輯, No. 3, 1965.
内海区水産研究所報告：No. 22, 1965.
日本学術会議編：将来計画に関する中間報告 III, 1965.
日本菌類学会会報：Vol. V, No. 1, Vol. VI, No. 2.
東大海洋研究業績集：Vol. 2, 1963.
逐次刊行物目錄（国会図書館）：昭和36, 37年度版.

評議員会記事

昭和40年10月3日午後4時半から5時半まで，総会にさきだち，東京教育大学応接室において評議員会がひらかれた。

出席者：評議員：福島博，広瀬弘幸，今堀宏三，猪野俊平，野田光蔵，須藤俊造，田中剛，時田郁

会　長：山田幸男　幹事：片田実，山田家正

欠席評議員黒木宗尚，近江彦栄，瀬木紀男三氏のうち黒木，近江両氏は会長に委任し，次の事項について協議承認された。

1. 昭和39年度庶務・会計報告。
2. 昭和40年度庶務・会計中間報告。
3. 昭和40年度後半の予算原案。
4. 幹事手当の件。
5. 評議員選挙方法について。
6. 会長辞任の件。

第13回総会記事

本会第13回総会は評議員会にひきつづき午後5時半より6時半まで東京教育大に於て開催された。出席者64名。

総会は次の順序で行なわれた。

I. 開会の辞：片田実幹事。

II. 議長選出：慣例により地元会員の西沢一俊氏が選出された。

III. 報告事項：

(1) 庶務会計報告：昭和39年度庶務・会計報告，昭和40年度庶務・会計中間報告，及び昭和40年度後半の予算原案につき山田(家)幹事より報告があり承認された。

(2) 第7回国際海藻シンポジウム（1971年）を日本で開催して欲しいという要望が海外からある旨片田幹事より報告があった。

(3) 1966年の太平洋学術会議（於東京）における藻類関係シンポジウム開催等に関して山田会長，新崎盛敏氏，佐藤正巳氏から各々説明があった。会期は1966年8月22日より3週間であるが詳細はいずれ植物学雑誌に掲載される見込み。

Ⅳ. 協議事項:

(1) 幹事手当の件:

山田会長より会員数もふえ，財政的にも若干の余裕ができたので幹事手当（現行は任期1年につき3年間の会費免除）を校正謝礼の意味で3,000～5,000円の間で検討し実施したいと発言があり，異議なく承認された。

(2) 評議員選挙方法について:

現在は単記無記名であるが，評議員の定員に応じて連記にすべきだという意見があるので検討し次期総会で決定したい旨片田幹事より発言があり了承された。

(3) 会長辞任の件:

山田会長より一身上の都合により会長を辞任したい旨申出があり，全員これを承認し辞任が決定した。

(4) 新会長の決定:

会長辞任に伴い会長に空席ができたが，会則に従い前回選挙における次点者の北大水産学部教授時田郁氏が新会長に就任することになり，同氏の承諾が得られ決定した。その後時田新会長の就任挨拶があった。

(5) 新会長時田郁氏より提案があり評議員と協議後総会においてはかった結果，会則に次の一項を付加することに決定した。「本会に名誉会長を置くことができる」。

(6) 時田会長より「山田前会長を名誉会長とする。」という提案があり，満場一致で決定された。

(7) 出席者（64名 敬称略 ＡＢＣ順）

I. A. ABBOTT	秋山 優	秋岡英承	新崎盛敏	伊藤市郎
猪野俊平	今堀宏三	岩城住江	岩本康三	榎本幸人
大塚浩一郎	大野正夫	大房 剛	岡田喜一	加崎英男
片田 実	加藤光秋	金森 武	香村真徳	北見健彦
北見秀夫	喜田和四郎	熊野 茂	小林一雄	小林艶子
小林 弘	佐々木正人	佐藤正巳	鈴木邦子	瀬戸良三
須藤俊造	鷹取晟二	高野克夫	多湖実輝	舘脇正和
田中 剛	谷口森俊	千原光雄	坪田 宏	津村孝平
寺本賢一郎	時田 郁	徳田 宏	西沢一俊	野田光蔵
林田文郎	久内清孝	平野 実	広瀬弘幸	福島 博
福原英司	堀 輝三	丸山 晃	御船政明	三輪知雄
森 通保	薬師寺英次郎	山田家正	山田幸男	山岸高旺
吉田啓正	吉田忠正	吉崎 誠	渡辺 篤	

懇　親　会

総会にひきつづき懇親会が盛大に行なわれた。東京教育大学長三輪知雄氏の乾杯の音頭により始められ，時田会長より折から来日中の ABBOTT 博士 (Stanford Univ.) の紹介があり，同女史のスライドによる Hopkins Marine Station 近辺の海藻について話があり，ひきつづきフイリッピン パターン半島に調査団長として行かれた鹿児島大田中剛氏より映画による講演があった。

以上会の報告を終えるに当り，本会開催のため多大の御尽力を賜わった東京教育大学小林弘博士，日本大学山岸高旺博士その他大会役員の方々に厚く御礼申上げる。

役　員　移　動

総会記事で御承知の通り，北海道地区評議員であった時田郁氏が会長に就任されたので，本会の事務所は函館に移転し，巻末に記した北大水産学部植物学教室内で会務をはじめた。各幹事も巻末記載のように会長から委嘱されたが，同じ北海道地区評議員の他の1名である近江彦栄氏も編集幹事を委嘱されたので，同地区評議員は本会会則附則3条にてらして2名とも欠員となるので繰上げ当選が必要となった。

さる40年2月の選挙における次点者は，中村義輝，長谷川由雄両氏 (同票数) であったので，前評議員の残余期間をこの両氏に尽力ねがうことになった。

第11回 太平洋学術会議
藻類集談会

本年8月，東京で開催される太平洋学術会議に藻類関係は，*Symposium* 36 として8月25～26日に "Algae in the Pacific, Biology and Cultivation" を主題に集談会が行なわれることになった。会場は東京大学理学部2号館大講堂である。

25日は Biology で，分布，フロラ等に重点をおいた話を主とする。

26日は Cultivation に重点をおく。

海外から出席予定を申し出ている人々は，アメリカから10名，カナダから2名，ニュージーランド1名，オーストラリヤ1名，チリー1名，フランス1名，インド3名，南ベトナム1名，フイリッピン1名，琉球1名，計22名である。これら予定者が揃って来日されれば盛大な集談会となるであろう。日本から発表に参加する人数は外人の $^1/_3$ 位が限度とされており，現在予定されているのは次の方々である。須藤俊造氏 "日本のノリ養殖"，長谷川由雄氏 "コンブ，ワカメ等の生産状況"，瀬木紀男氏 "テングサ類について" をはじめとし，千原光雄，田中剛，舘脇正和，時田郁の諸氏に交渉が進められている。

以上は，この集談会の世話人をされている新崎盛敏氏からの連絡であって，会員の皆様にお伝えし，当日には多数聴講されるようお勧めいたします。